

伊藤

三右衛門 藤原重次しげつぐは中統と重定しげさだの二男
 をり甲斐の生る兄を助丞重久しげひさより
按てり方子家譜より祖父掃部助重景しげかげの通いに
玄蕃元より生む浅井中野とるより後より甲斐
 に入りて武田信虎より信玄しげひらと重定しげさだの通に
 生れ武田家に侍るなり信虎及び
 信玄の歴仕し教度の軍功ありしなり

六十歳より死して法名を順慶とす
兄重久も信玄勝頼より志川戦
場をせめり天正三年長篠合戦
討死す
三十三あり法名を宗英
とす寛永重次より亦一節とす家
新五節ともいひ貞享米倉書上兄の送函
を以て勝頼より天正七年駿河
國田中城より軍功をいひ一節と

かうして上野國赤松の城攻より首級を以てり
同十年甲斐國没落して後
東照宮よりまことなるありまのり
北條氏直甲斐國を攻めんと進發する
より公のえらきいしり出馬あり
まのり先より多くしてさしむけり
重次より
大はかりして長随一より軍功を
とすまのり此時小治の心を武川

諸士いしあし氏直に属しよしとも
重次をいしあし戦いし武川に
諸士もいしあし旗中もいしあし
寛永 濤 やう

東照宮新府に渡りし後ひし付米倉
佐方丈豊純同彦方丈利純と共し
小沼の山をよし討取し首級をいしせ
りり重次もいしあし

竹一石 寛永 濤
貞享書上

東照宮威格しあし巻物足服等
いしあし書上 貞享 けし氏直と共し
めしあし中澤維教在りし同新彦兄弟
に命し武川の士と共しいしあし
書状をいしあしいしあし
重次いしあし知し維教在りし討取
新彦いしあし豊純討取 貞享書
上 家濤 功あり

ろうやうと申すに、
 けし申根を、
 組一、
 せむの、
 多、
 後官の、
 同十二年、
 同十二年、
 同十二年、

城、
 諸士、
 後向、
 め、
 興國寺、
 同、
 去年、
 出、

をよまらる同十七年加恩の地をよま
い家同清十八年小田原陣よまらる
けしつと關東よ入せ給ひ一時長尾國
男か倉郡すけ新形よまらる采地をよまらる
舊功ありとよまらるけしつ書と恩免あり
くいきうきとよまらる采地よまらる寛永同十九年
九戸一揆のよまらる大久保忠世一属一
陸奥國岩手澤まらる家同清慶長六年

關原陣のよま

東照宮は仰せつけ給り
右徳院殿一属一をよまらる
真田陣一信春一寛永同九年二月武
藏國よまらる百十石條と加恩せられ家同
十七年二十二年一して死を法名と
善徳よまらる其子新お金重昌
甲斐一新お席一

東照宮の仰より尾張大納言義直
卿より長十郎の慶長十の年より
白子徳院殿より長十郎の里
十七年遠跡より長十郎の元和
元年大坂の役の時陣より
同九年駿河大納言忠長卿より
處士より寛永十年より
後

家

寛永

家

大猷院殿より日俸より
仰より
同十八年十一月下総國匝瑳郡
同十八年八月

寛永

嚴有院殿より附屬せし三九の番を
片も後廣より番の改より慶安

三年八月より西條の初仕

家清○今の犬番
伊藤三右衛門元長

分祖

清重重明キチウキ新ニ西條重昌ニ男

あうニ清重ニ又清重

とニ家保ニ四年十二月ニ十人

とニ月俸十口ニ慶安

三年十二月新恩百俵とニあま

伊藤新五右衛門
修安の祖なり

伊藤

喜ニ藤原景持ハ大悟景

秀ニ景考ト名良

持廣ニ幕ハ紋若ハ丸

ふニ景持ニ河ニ

東照宮ニ其後殉命ト

因濟ニ信康君ニ仕ニ

死ニ其子金ニ其心ニ